

1 題材名 English? for International Communication

2 題材のねらい

本題材は、教科書「TOTAL ENGLISH 2」（学校図書）p.61-64にある Reading I 「English for International Communication」を元にしたものである。この単元は、生徒にとっては初めての word 数が明示してあることから分かるように、速読と大意把握を目的とした教材である。また、Lesson と Lesson の間にある読み物であるため、教師は特に内容に深入りせずに読み進めたり、自宅学習の課題にしたりすることの多い教材であるが、今回、その国際性に着目し、また、多様な文化や言語を背景に育ってきた帰国生の存在を活かすべく、あえて内容に深入りしてみようと考えた。

この話は、日系企業のタイ支社に勤める Mr. Suzuki、ベトナム人ファッションデザイナーである Mr. Phan、そしてタイ人雑誌編集者である Ms. Napaporn の3人が、仕事上の会議で英語を使うという話に始まり、続いて世界での英語使用の現状が分かりやすく解説され、最後には英語を使うことを怖れがちな日本人を代表して Mr. Suzuki が皆にエールを送る、という筋立てである。

このありがちな話を、あえて素直に読み進めず、近い将来多様な外国人と関わって生活していくことになる世代の生徒たちが、“言語”というものに対して多少なりともクリティカルで俯瞰的な視点を持つようになってほしいという願いを込めて本授業を企画した。タイトルの English の後の「？」には、ちょっと立ち止まって考えてみようという授業者の思いがある。

登場人物の3人が会議で英語を使っているのは、英語が国際語だからなのか？英語のネイティブスピーカーはなぜイングランド地方の人達だけではないのか？世界の一部の人達はなぜ第2言語として英語を使うようになったのか？日本人のように外国語として英語を使う人たちにとって英語は易しい言語なのか難しい言語なのか？等々、考えさせたいポイントは多々あるが、その議論に陥ってしまうと英語の授業ではなくなるので、本授業では、それらの疑問をさりげなく織り交ぜつつ、帰国生の存在を活かした授業にしたいと考えている。

また、現在学習中の不定詞や、既習の従属接続詞（when、because）を使って、“English and I”についての考えを出し合ってみたり、「英語よりも簡単だ」と本人達が言うアラビア語や中国語も帰国生に披露してもらう予定である。英語、中国語、アラビア語は、巨大な話者人口を抱える言語でもあり、また、それぞれの話者にとって互いに習得の難しい言語の一例でもある。生徒にとってはそういった言語に一気に触れられる好い機会である。同時に、外国語習得の難易につながる言語間距離についても生徒と一緒に考えてみたい。

3 「一人ひとりを支える・生かす・伸ばす」視点から

第2学年では、帰国生は2年松組（8名）と菊組（7名）に分かれて在籍している。松組では男子9名のうち3名が帰国生、女子21名のうち5名が帰国生、1名が小学校帰国の生徒である。彼らが習得してきた言語は多くは英語だが、いわゆる英語ネイティブの国で現地校に通って英語を身につけた生徒は2名しかいない。インターナショナルスクール等で様々な英語に触れた帰国生の中には、イギリス英語やアメリカ英語の区別だけでなく、インド人の話す英語やインドネシア人の話す英語を聞いて区別できる生徒もいる。また、英語以外の言語を家族親族を通じて日常的に使っている生徒もいれば、

在外地の現地の言語を多少使える生徒もいる。一方で、日本での日々の学校生活の中で、帰国生が在外国の文化や習慣を自分から話題にすることはあっても、言語自体を話題にすることはあまりないようなので、この授業をその機会としたい。言葉は文化であると言われるが、個人にとっては言葉は人生であり、自己のルーツでもあり、また自尊感情とも密接に結びついている。この授業が一般生にとっても、帰国生を窓口として言語や文化の多様さを知る機会となることも期待したい。

4 題材の展開

第1時 New Words 確認、速読チェック(wpm)、時間のある人はT/F (50分授業の内30分)

第2時 各セクションごとに文構造の確認と大意把握 (50分授業の内30分)

第3時 English? for International Communication (1) (50分)

①世界の中での英語使用

- ・ as a native/first language
- ・ as a second language
- ・ as a foreign language
- ・ 19～20世紀の歴史 (Keyword: colony, war, politics, economy, computer)

② English and I (グループ活動)

I (don't) use [speak, listen to, read, write] English when I

①いろいろな英語 * You Tube 視聴

第4時 English? for International Communication (2) (50分) (本時)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①英語という言語について、また、英語と自分について改めて考え直してみる。
- ②帰国生が習得してきた英語以外の言語に触れることで、言語を相対的に見る視点を得る。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国生の海外在住経験と使用言語 Where and how long did you live? What language did you use? 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外経験のある生徒達の言語的な背景が分かるように黒板に略歴表を作成する。
課題追究	<p>(1) English and I (グループ)</p> <p>Q) <u>Do you like English?</u></p> <p><u>Is English easy for you?</u></p> <p>A) I like/don't like English because.....</p> <p>A) English is/isn't easy to me because.....</p> <p>(2) Let's try Chinese, Arabic and</p>	<p>(1) 前回の授業に引き続き、自分と英語との関係を改めて生徒が見つめ直す機会となるよう促す。</p> <p>(2) ・ 帰国生が〇〇語のイロハを紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハリーポッター外国語版などを紹介。 ・ 英語と比べて難しそうか? 易しそうか?
省察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語習得についての難易度表を使って、言語間距離について考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文字」「発音」「構造(文法)」の3つの壁の有無

(3) 本時の評価

- ・ 英語という言語について、また、英語と自分について改めて考え直して見ることができたか。
- ・ 帰国生が習得した英語以外の言語に触れることで、言語を相対的に見る視点を得ることができたか。